



【基本情報】

クラブ名	栃木 SC		
活動テーマ	試合告知チラシ配り		
実施場所	宇都宮駅周辺		
活動部署	マーケティンググループ		
参加者	星野創輝	岩崎博	木邨優人
	庄司朗	屋宜和真	吉野陽翔
活動期間	2025 年 10 月 8 日（水）17:00～18:00		

【活動報告詳細】

■活動目的

10/12(日)J3 リーグ第 31 節福島ユナイテッド F C 戦の集客、告知のためのチラシ配布活動を実施しました。活動前に

①基本姿勢②服装・身だしなみ③コミュニケーション④安全面⑤SNS や写真対応

この 5 つ注意点を確認し活動しました。

集客の難しさ、クラブの代表としての丁寧な対応、コミュニケーションの向上、フロントスタッフの地道な活動を知ってもらうことを目的としました。

■活動内容

宇都宮駅西口、東口で試合告知チラシ配り

■選手コメント コメントは各選手につき 200 文字以上お書きください。

星野選手

大学の時も校内で部活動に関するチラシ配りをしたことがあった。観客を集める、スタジアムに足を運んでもらう難しさを感じたと同時に、毎試合スタジアムに足を運んでくださるサポーターの方々は当たり前ではないし、とても有り難いことなのだと感じた。

岩崎選手

今回配ったチラシは 1,000 枚程と聞いたが、それを配り切るのも大変だったので、いかに多くの人に呼びかけることが大変かを知った。普段集客してくれている方への感謝をより持とうと思った。来場してくれている方がいつもより増えているので、プレーで結果を示そうと思った。

木邨選手

チラシ配りを行ってみて、ボランティアで協力してくださったサポーターの方々がいたこと、そしてチラシを配る際に応援の言葉を言ってくださる方など、栃木 SC というクラブは市民の方々の応援してくださっているサポーターの方々のおかげで活動できていることを実感した。勝利という形で返していくことが大切なことであると感じた。

庄司選手

クラブスタッフの方やサポーターの方と告知活動を行なって、日頃の試合での集客活動がどのように行われているのか学ぶことができた。集客の大変さや、自分たちの普段の活動がたくさんの人の支えによって送られていることを強く感じた。

屋宜選手

率直な意見としては、私たちの知名度はまだまだ足りていないと感じた。しかし、フロントの方々やボランティアで来てくれているサポーターの人たちの強い思いが間近で体感することができた。選手である自分たちから積極的にピッチ内外どちらでも地域貢献していきたいと思う。

庄司選手

ビラ配りしている人の気持ちがわかりました。栃木 SC を知っている人、知らない人の反応の差が明確でたくさんの人に知ってほしいという気持ちが増しました。最初受け取ってもらえなかったことが多く難しさを感じたのですが、話す言葉、話し方を考えたら受け取ってもらえる回数が増えことを掴んだ気がしました。人を集めることは本当に難しく、宇都宮に 50 万人の人がいるので全員にファンになってもらえば、スタジアムを埋めることが出来ると思い浮かびました。

■活動写真



※この活動レポートはJリーグのHPにアップいたしますので必ず広報担当者の確認を取ってください。

活動レポート 作成者名	高杉 亮太	活動レポート確認 広報担当者名	岩上 享美
----------------	-------	--------------------	-------

【基本情報】

クラブ名	栃木 SC		
活動テーマ	貧困、関係性の貧困		
実施場所	キッズハウスいろどり、TAKUWAERU、ちゅんちゅん子ども食堂		
協働団体	宇都宮市	一般社団法人栃木県若年者支援機構	
	Educarealize Group	すずめのす	
参加者	星野創輝	庄司朗	屋宜和真
	岩崎博	木邨優人	吉野陽翔
活動期間	2025 年 11 月 12 日(水)		

【活動報告詳細】

■活動目的

宇都宮市を知ること。
貧困について考える。

■活動内容

宇都宮市の抱えている問題のひとつ「貧困」についての勉強会をし、実際にこども食堂に訪問する。フードライブのお届け、こども達や職員の方と話したりすることで、現状を知り自分たちにできることなどについて考える。
「経済的な貧困」だけでなく「関係性の貧困」についての改善に一役買ってもらう。

■選手コメント

星野選手

自分も小学生の時に横浜市で「はまっ子」という制度にお世話になっていたのが懐かしいと共に自分も楽しませてもらっていたなと思った。このような活動の大切さを実感することができた。このような施設がどんどん増えればいいなと思いました。

庄司選手

こども食堂の役割の重要性を感じた。こども食堂がただご飯を食べる場所というのではなく、放課後の子どもたちの居場所として大切な場所であると感じた。小さい子ども達が孤独感を感じずに育てる環境を守っていくために、こういった活動を多くの人に知ってもらいたい。

屋宜選手

本日、フードライブで回収した飲食料品を子ども食堂に届けにいき、子ども達と交流をしたが私が思っている以上に人数がいた。このような家庭環境があることや子ども食堂という活動が行われていることは、世に表面化されづらい。選手としてだけではなく社会人1年目の身としてこのような実態があることを知れて良かった。栃木 SC の一員として社会貢献することの意義を感じれたと思う。

岩崎選手

家庭の事情で学校後に家に戻れなかったり、食事できない子どもたちにとってとても重要な場所だと思った。部屋にはお米や近くのお店から様々な食料が送られて多くの人の協力で成り立っていると思った。栃木 SC を応援してくれている子が多くユニフォームを持っていたり、試合に来てくれて自分たちは夢を与える存在で試合に勝つ責任があると感じた。

木邨選手

今回訪問してみて、子ども達と交流することで自分自身も元気をもらうことができ、交流する際に一緒にサッカーをしたのですが、とても楽しそうにサッカーをしていてボール一つでとても強い繋がりを作ることができると感じました。栃木 SC は子ども達にとっても強い影響力があると思うのでより一層躍進していく必要があると思いました。

吉野選手

初めてこども食堂に行きました。子ども達とサッカーをしたり工作をしたり、とても充実した時間を過ごせました。最初は少し緊張した子ども達も、サッカーをするうちに笑顔が増えていったことが嬉しかったです。スタッフの方達もとても優しく、子ども達が居心地よく過ごせる環境が整えられていると思いました。あたたかい雰囲気心がほっこりしました。夕食を食べていると聞いたのでどんな料理を食べているのか気になりました。また機会があれば子ども達と交流しに行きたいと思います。

■活動写真

